

第3回策定委員会 資料2

令和4年度の検討の振り返りについて

2023年8月2日
台東区都市づくり部

1. 新ビジョンの概要

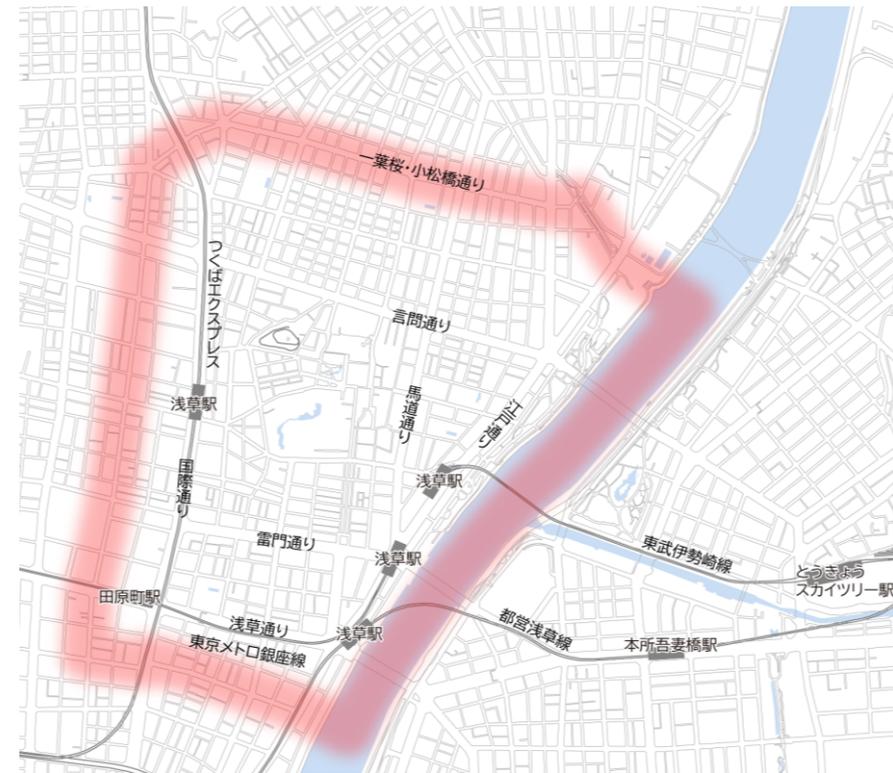
1. 新ビジョンの概要

■浅草地区まちづくりビジョン策定の背景・目的

- 浅草地区は、平成19年に「浅草地域まちづくり総合ビジョン（以下、現ビジョン）」を策定し、各種プロジェクトを推進してきた。
- 現ビジョン策定後、東京スカイツリー開業や外国人を含む観光客の増加、さらにはコロナ禍など、本地区を取り巻く社会経済状況は大きく変化している。
- このような状況を踏まえ、今後のまちづくりの方向性を示す「浅草地区まちづくりビジョン（以下、新ビジョン）」を策定し、浅草の多彩な資源を活かした魅力あるまちづくりを進めていく。

■目標年次

- 新ビジョンは、「台東区都市計画マスタープラン」や「都市づくりのグランドデザイン（東京都）」における計画期間を鑑み、現在より概ね20年後の**2040年代頃**の将来イメージを目標とする。

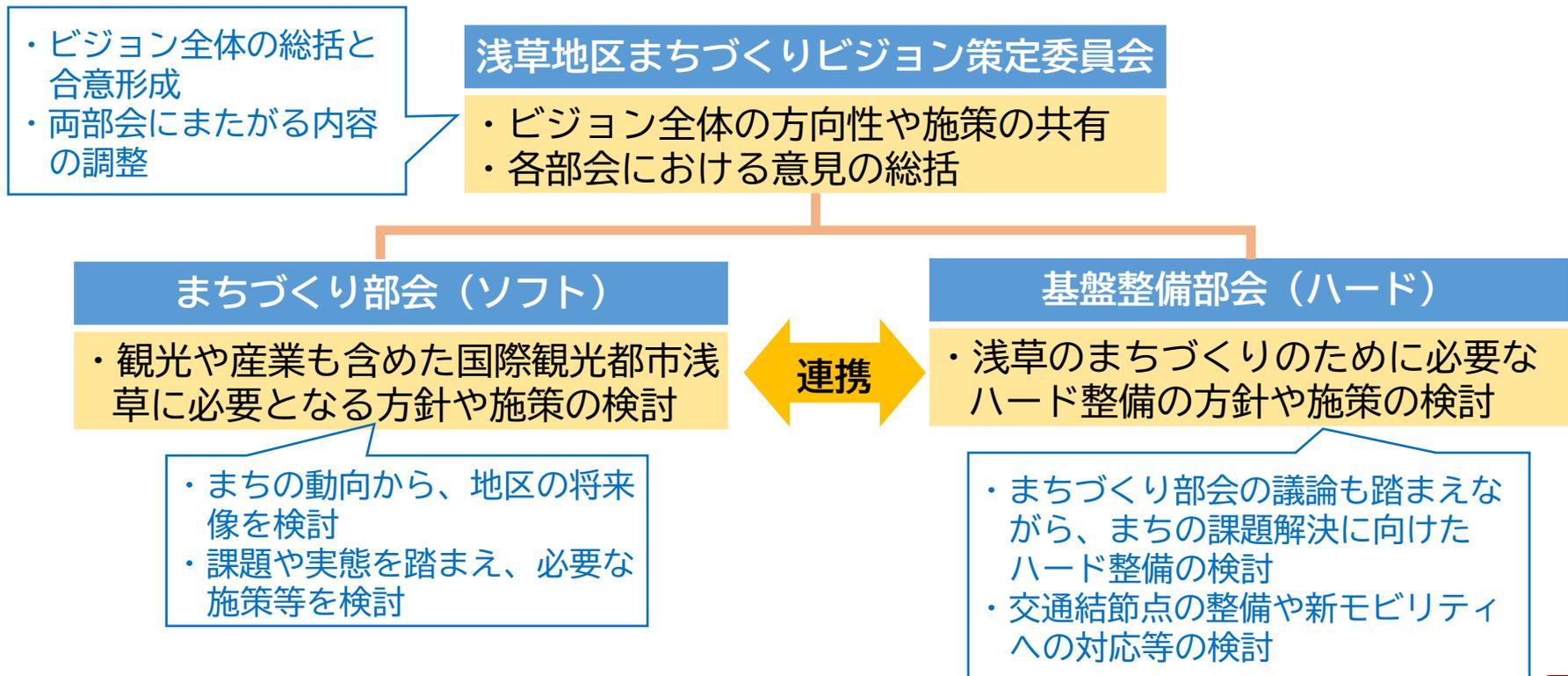


検討範囲

1. 新ビジョンの概要

■検討体制

- 浅草地区の将来像の明確化に向け、まちづくりと基盤整備の両輪で検討を推進
- 「まちづくり部会」は、主にソフト面の取組みを整理し、基盤整備部会に検討内容を共有
- 「基盤整備部会」は、地区の現状やまちづくり部会の検討を踏まえ、今後の社会動向を見据えたハード面の取組みを整理
- 策定委員会は、両部会の意見を総括し、ビジョン全体の方向性や施策をとりまとめる



2. 第1回策定委員会（部会合同 9/28）の概要

2. 第1回策定委員会（部会合同 9/28）の概要

- これまでの経緯と令和2・3年度の調査内容を共有した。
- 新ビジョンの策定の目的や検討範囲、目標年次等を確認した。
- 浅草地区の課題と検討の方向性、将来イメージ（たたき台）を共有した。

【議論の状況】

- 現ビジョンで実現できなかったものについて理由も含め考察するなど、丁寧な現ビジョンの総括が必要。
- 東京の中での浅草の位置付けや押上、スカイツリー、上野などとの関係性を考えていく必要がある。
- 生活と観光の関係、商売と観光の関係を整理して、新ビジョンに盛り込んでいかないといけない。観光だけではなく、まちづくりや生活のこともしっかりと捉えていくことが大事である。
- 墨田区側の隅田公園は人が集まるようになり、川沿いの変化が起きている。築地では、舟運ポートの検討もされている。隅田川軸を考えていくことは、大変価値が高い。
- 多くのビルは、これから耐震補強や建替えをしていかなければならない。その際に、どのように建て替えるか、皆で共通のイメージを持つことが重要である。浅草というブランドをいかに維持しながら、まちをリニューアルしていくかを皆で考えていく必要がある。
- 自分を中心とした小さいエリアでどうやっていくか、それをどう広げていくかが重要である。浅草は、東西南北に面白いものがあるので、一日では見切れないと見せていく工夫が必要である。
- 観光一辺倒というより、様々な機能や用途が入っている繁華街のようにすることを考えていけたら良い。
- 滞在時間を増やすためには、歩きやすく、歩きたくなるまちなかであることが重要である

3. 第2回策定委員会（2/15）・部会（1/30 2/8）の概要

3. 第2回策定委員会（2/15）・部会（1/30 2/8）の概要

■調査について

- 新ビジョン策定に向けて実施した、「来訪者webアンケート調査」「デジタル人流データ分析調査」「滞留状況の実測調査」の結果を報告した。

①来訪者webアンケート調査

目的	浅草地区への来訪実態や観光動向、まちづくりの考え等を把握する
方法	携帯キャリアによるweb形式アンケート
時期	令和4年11月7日
対象	過去2年間に浅草地区周辺に来訪実績がある者（有効回答：1,327件）

【主な調査結果】

- ・ 主な来訪目的は「観光」と「飲食」が多い。
- ・ 来訪頻度は年1、2回以下と高くはない。
- ・ 来訪時の交通手段は電車が多く、地区内の移動は徒歩が多い。
- ・ まちの良いところは、「景観・まちなみ」や「店舗の魅力」。
- ・ まちの残念なところは、「人の多さ」や「休憩する空間が少ない」。

3. 第2回策定委員会（2/15）・部会（1/30 2/8）の概要

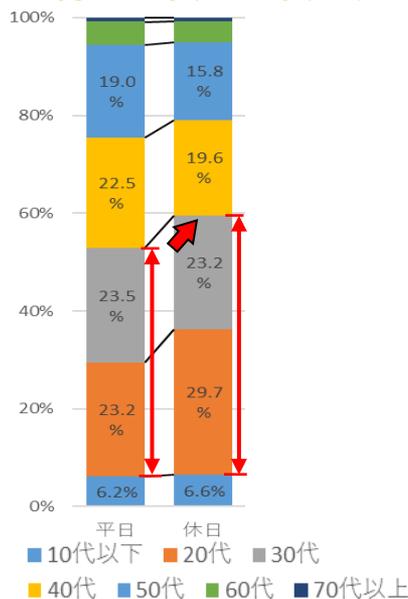
②デジタル人流データ分析調査

目的	ビッグデータから、来訪者の動向を可視化し、訪れる地点や主要な動線等を把握する
方法	携帯アプリの位置情報等によるデータを活用
時期	①2019年5月（コロナ前） ②2022年5月 ※各2週間分のデータを取得
対象	デジタル人流データより、徒歩で浅草地区内を回遊したと想定される来訪者

【主な調査結果】

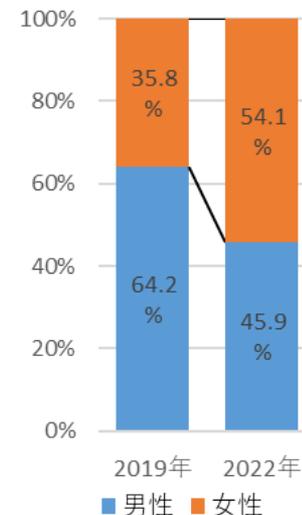
- ・ 特定の場所（浅草寺・仲見世・駅周辺）・時間（日中）に人が集中。
- ・ 他地区との往来は、上野・東京スカイツリー周辺が多い。
- ・ 浅草地区から墨田区側へ行く人が多い。
- ・ 休日は特に20代、30代が多い。
- ・ 女性来訪者の割合が増えた。

休日は特に20代、30代が多い



女性来訪者の割合が増えた

コロナ禍前と比べ
女性の割合が約1.5倍に増加



3. 第2回策定委員会（2/15）・部会（1/30 2/8）の概要

③滞留状況の実測調査

目的	滞留行動の傾向・特性を把握する
方法	屋外の来訪者の滞留状況について、調査員が実測しマッピング
時期	平日：令和4年11月2日（水） 休日：令和4年10月23日（日）
対象	①雷門通り、②浅草六区通り、③伝法院通り、④すしや通り、⑤馬道通り、⑥六区ブロードウェイ、⑦並木通り、⑧東参道・二天門通り、⑨隅田公園

【滞留状況の実測調査】

- ・ 滞留者の行動を「立ち」「座る」「その他」に分類すると、隅田公園と東参道・二天門通りを除き、いずれも「立ち」の割合が高い。
- ・ 隅田公園は、「座り」の割合が高く、東参道・二天門通りは、人力車で移動している人が多い
- ・ 伝法院通りでは「飲食」、吾妻橋付近では「写真撮影」など、通りによってアクティビティに違いがある

3. 第2回策定委員会（2/15）・部会（1/30 2/8）の概要

■調査について

【議論の状況】

まちづくり部会

- ① 滞留時間が長くなると消費額も増える傾向であり、**長時間楽しめるまち**とすることが重要。
- ② 伝法院通りの整備により、六区ブロードウェイまで人通りが増えたように、**面的にまちを活性化していく発想**が重要である。
- ③ 隅田公園やリバーサイドギャラリー、防災船着場の活用を工夫し、**水辺への誘導**が必要。
- ④ **隅田川の舟運、隅田公園、地区西側の動線**を強化すると回遊性が向上するのではないか。

基盤整備部会

- ① 滞在時間と消費額に一定の相関関係が見られるため、**いかに滞在時間を長くするかが鍵**。
- ② **隅田川とまちとのつながり**が薄いと感じる。川へのつながりについては、現ビジョンの未了プロジェクトである**東武浅草駅周辺を含めた整備**も関係してくると思う。
- ③ 浅草地区内だけでなく、**上野やスカイツリーなど広域**での視点も必要である。

策定委員会

- ① 年代など**属性別の消費行動や滞留**について、さらに深掘りできると良いのではないか。
- ② スマートフォンでの情報取得が多い一方で、**楽しんでまちを歩くには、サイン案内も必要**。

3. 第2回策定委員会（2/15）・部会（1/30 2/8）の概要

■論点1：ウォーカブルな空間づくり / 論点12：公民連携のまちづくり

ウォーカブルな空間づくり

- ・ウォーカブルな空間づくりにより、期待される効果や考え方を策定委員会で確認した。
- ・地区の回遊の要となる目抜き通りである雷門通りにおけるウォーカブルのイメージ（案）をあわせて共有した。

公民連携のまちづくり

- ・すでに実施されている浅草六区ブロードウェイや浅草地区周辺で実施されている公民連携のまちづくりの事例を踏まえ、今後の方向性を確認した。

六区ブロードウェイの取組み	2019年9月に国家戦略特区に指定され、公民で連携しながら、道路空間を活用し、まちづくりに取り組んでいる。
墨田区かわまちづくりの取組み	墨田区の北十間川を中心としたエリアは、公民連携により、「水辺」「公園」「道路」「鉄道高架下」が隣接する立地を活かした一体的な空間づくりを実施している。

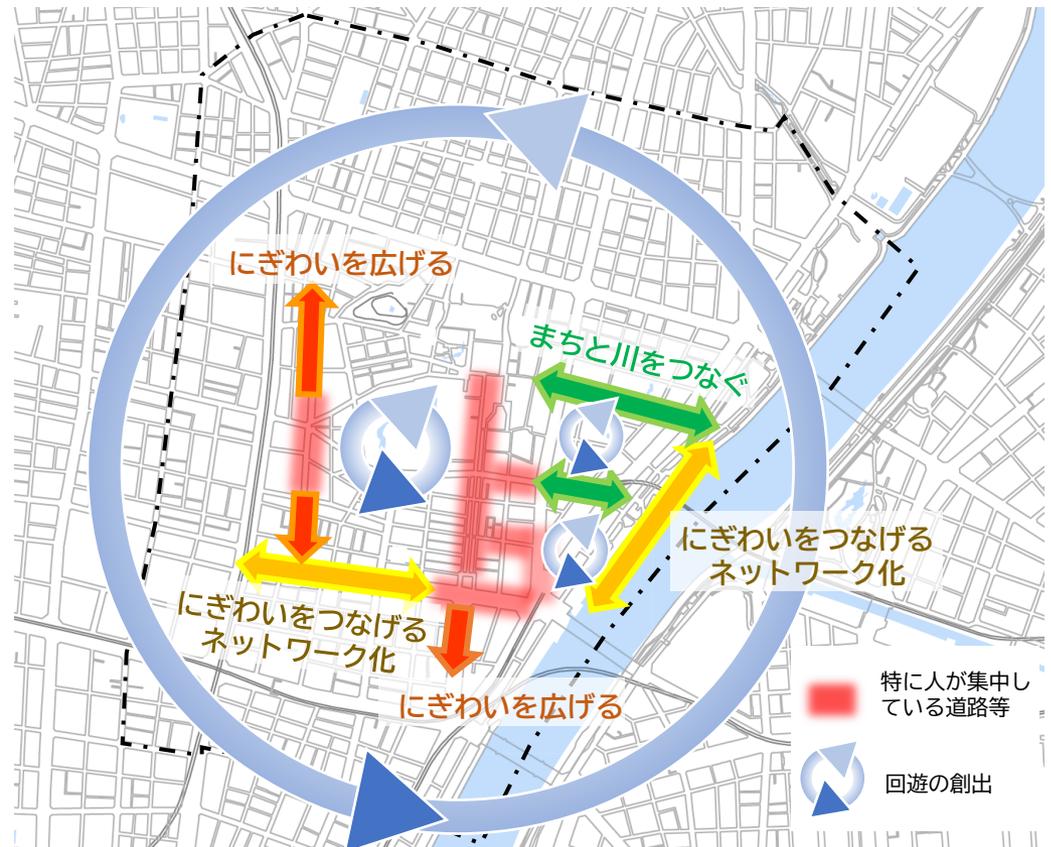
3. 第2回策定委員会（2/15）・部会（1/30 2/8）の概要

ウォーカブルな空間づくりにより、 期待される主な効果

- 混雑、密集の緩和、人の集中の分散
- 通行しやすい空間の確保
- 交通環境の向上
- まちと隅田川のつながりの強化

ウォーカブルな空間づくりの考え方（下図）

- 現在、特に人が集中している道路から、ウォーカブルな空間づくりを通して、にぎわいを広げ、それを他の道路とネットワーク化していくことで、地域内の回遊を創出する。
- 空間づくりにあたっては、地域の新しい取組みを引き出し、公民連携で取り組んでいく。



3. 第2回策定委員会（2/15）・部会（1/30 2/8）の概要

■論点1：ウォーカブルな空間づくり / 論点12：公民連携のまちづくり

【議論の状況】

まちづくり部会

- ① 凸凹な道路環境や駅のバリアフリー化が課題であり、「ユニバーサルデザイン」を基に考えていく必要があると感じている。
- ② 浅草は立っている人が多いと感じる。座って滞留できる場所をつくと居心地が良くなる。
- ③ 道路空間の活用では、居住者も多い地区であるため、歩行者と自転車の安全性確保も必要。
- ④ 雷門通りをウォーカブルにしていくことは、混雑緩和や水辺とのつながりへの効果大きい。カフェテラスのような活用が出来ると、人の流れやイメージが変わるのではないか。

基盤整備部会

- ① ウォーカブル空間の実現には道路だけではなく、駅周辺や広場等のオープンスペース整備も含めた検討が必要ではないか。
- ② 雷門通りのウォーカブル空間の実現にあたっては、自動車交通量や交通を制限した場合の車両動線、物流動線等への影響等を科学的に分析しながら進めていく必要がある。
- ③ 浅草地区には、多くの住民もいるので、観光地としての側面だけでなく、住民への影響も考慮して検討する必要がある。

3. 第2回策定委員会（2/15）・部会（1/30 2/8）の概要

■論点1：ウォーカブルな空間づくり / 論点12：公民連携のまちづくり

【議論の状況】

策定委員会

- ① ウォーカブルなまちづくりは、**まちの賑わいを生み出す重要な施策**である。
- ② 浅草には座るところが少ない。**滞留できる場所があると人の動きが広がっていく。**
- ③ ウォーカブルについて議論すると、道路空間の活用にはばかり着目されがちだが、沿道の民有地や建物低層部の空間についても**官民が一体になって活用**していくことが重要。
- ④ 道路空間の活用実験等の際には、**デザインにも力を入れて欲しい**。沿道の設えが周囲の景観と一体的になっていることで、地域の価値を高めることができる。
- ⑤ 駅間の**乗換え利便性の低さ**や広域アクセスの面からも**アクセシビリティ**の議論が重要。
- ⑥ 観光ビジョンではなくまちづくりビジョンである以上、奥浅草・観音裏や雷門の南側等をはじめとして**生活空間の質を上げていく**ことが重要である。
- ⑦ **居住者と観光や賑わいとの間で軋轢**が生じている。すみ分けやルール作りなどを含め、どのように**上手くバランス・調和**をとるかを考える必要がある。
- ⑧ 建物更新の時期も来ている**変わり時**である。課題解決型だけでなく、**中長期や未来を見据えての発想も同時に必要**ではないか。
- ⑨ 浅草だけでなく、**墨田区・隅田川・上野との連携まで範囲を広げて、浅草のまちはどうあるべきか議論すべき**ではないか。